

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 24 年 10 月 25 日 (2012.10.25)

【公表番号】特表 2009-514857 (P2009-514857A)

【公表日】平成 21 年 4 月 9 日 (2009.4.9)

【年通号数】公開・登録公報 2009-014

【出願番号】特願 2008-538910 (P2008-538910)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/192 (2006.01)

A 6 1 K 9/44 (2006.01)

A 6 1 K 9/20 (2006.01)

A 6 1 K 9/12 (2006.01)

A 6 1 K 9/68 (2006.01)

A 6 1 K 47/10 (2006.01)

A 6 1 K 47/16 (2006.01)

A 6 1 K 47/44 (2006.01)

A 6 1 K 47/18 (2006.01)

A 6 1 K 47/12 (2006.01)

A 6 1 K 47/20 (2006.01)

A 6 1 K 47/40 (2006.01)

A 6 1 P 29/00 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 31/192

A 6 1 K 9/44

A 6 1 K 9/20

A 6 1 K 9/12

A 6 1 K 9/68

A 6 1 K 47/10

A 6 1 K 47/16

A 6 1 K 47/44

A 6 1 K 47/18

A 6 1 K 47/12

A 6 1 K 47/20

A 6 1 K 47/40

A 6 1 P 29/00

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 24 年 8 月 23 日 (2012.8.23)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0020

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0020】

製剤に存するマスキング成分としての有機酸（アミノ酸を含めて）の量はイブプロフェンの苦みをマスク或いは隠すに十分量である（例えば、該マスキング成分により、或いは他のマスキング成分との併用により）そしてそれにより製剤を感覚器官的に許容されるものに作製される。代表的事例において、イブプロフェンの含量を基準として、製剤中に存在するイブプロフェンに対する有機酸の割合は、約 1 から約 2 を含む約 1 から約 3 などの

約0.5 から約4 の範囲である。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0021

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0021】

代表的事例において、該マスキング成分はシクロデキストリンを含む。シクロデキストリンには手頃なシクロデキストリンあるいは α -、 β -または γ -シクロデキストリンを含むシクロデキストリンの混合物である。代表的事例では、シクロデキストリンは β -シクロデキストリンである。本発明の事例の特徴は、存在する場合、該製剤中のシクロデキストリンの全量は、massに換算して該製剤中のイブプロフェンの約1倍量以下を含め、イブプロフェン活性剤の約1.5倍量以下などのイブプロフェン活性剤の約2倍以下である。

上に要約したように、主題の製剤は経口的に許容される固形製剤である。固形製剤は沢山の異なる剤形で存在し、代表的剤形は、限定的でなく口内錠、トローチ、錠剤、ガージェル、スプレーのような液剤及びガムである。ここで使用される「口内錠“lozenge”」は活性剤を含有するシュガー基剤或いはシュガーアルコール基剤（例えばソルビトール）の溶かした塊を冷却することにより形成される全ての投与形態を含むと意図される。ここで使用される「錠剤“tablet”」は、圧縮した散剤、顆粒、或いは圧縮ペーストから作製される単一用量剤形を包含すると意図される。固形投与剤形は口内錠、トローチ、錠剤、カプセル、チューイングガムの製造に当業界で公知の方法で作成され、酸調節剤、乳化剤、安定化剤、緩衝剤、香料、甘味剤、着色剤、保存剤などのそのような投与剤形に公知の他の成分を含有させてもよい。